広仁会賞　第22回　　大石　和佳

題　名：Impact of aging on the development of hepatocellular carcinoma in patients with hepatitis C virus infection in Japan

（日本のC型肝細胞癌の進展における高齢化の影響）

要旨：

C型肝炎ウイルス（HCV）感染の長期経過を調査するのは困難である。その理由には、慢性感染は多くの場合、無症候性であり、疾病期間が長いからである。また、高齢者患者におけるHCV感染の臨床転帰は、不明瞭である。一般的に、肝細胞癌（肝癌）は男性、壮年者に多いとされていたが、近年、高齢者の増加によりその病像に違いが認められている。今回我々は、C型肝癌の各種背景因子を男女別、年齢別に検討し、C型肝癌の病像に対する高齢化の影響について報告する。1988年から1999年に広島大学医学部附属病院で肝癌と診断された575人の患者の中で、430人のC型肝癌を対象とした。検討項目は、肝癌の初回診断時年齢、Child grade、種々の腫瘍側因子、輸血歴、輸血から肝癌発症までの期間、飲酒歴、被爆歴などである。男女ともに、C型肝癌患者の割合が高齢者で増加していた。女性は男性よりも肝予備能が有意に良好であった（$P<0.001$）。また、男女ともに、輸血から肝癌発症までの期間が、患者の輸血年齢が高くなるにつれて有意に短くなっていた（$P<0.001$）。常習飲酒者では、肝癌の初回診断時年齢が有意に若く（$P<0.001$）、肝癌発症までの期間も有意に短かった（$P<0.05$）。C型肝癌患者における被爆者の割合は、非C型肝癌における被爆者の割合より有意に高かった（$P<0.05$）。今回の検討から、C型慢性肝疾患は、男女に関係なく加齢に伴ってゆっくりと病変が進行し、最終的に肝癌へ進展することから、女性患者においても厳重なフォローアップが必要であると考えられた。